

ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトの「株主・投資家情報」では、決算短信等のIR情報をご覧ください。

<https://www.kawada.jp/ir/>



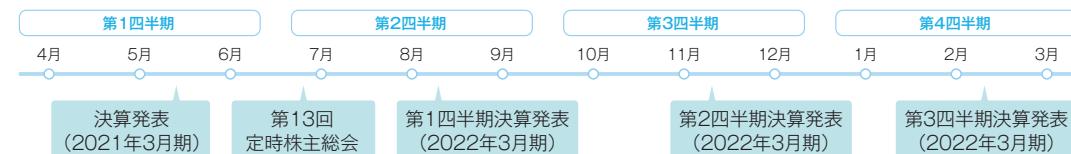
TOPページ



IRページ



IRカレンダー



Headline

●特集●

建設現場用
「アバターシステム」の開発 ……P11

KAWADA REPORT

国道45号気仙沼湾横断橋小々汐地区上部工工事
(国土交通省東北地方整備局)

第13期 株主通信

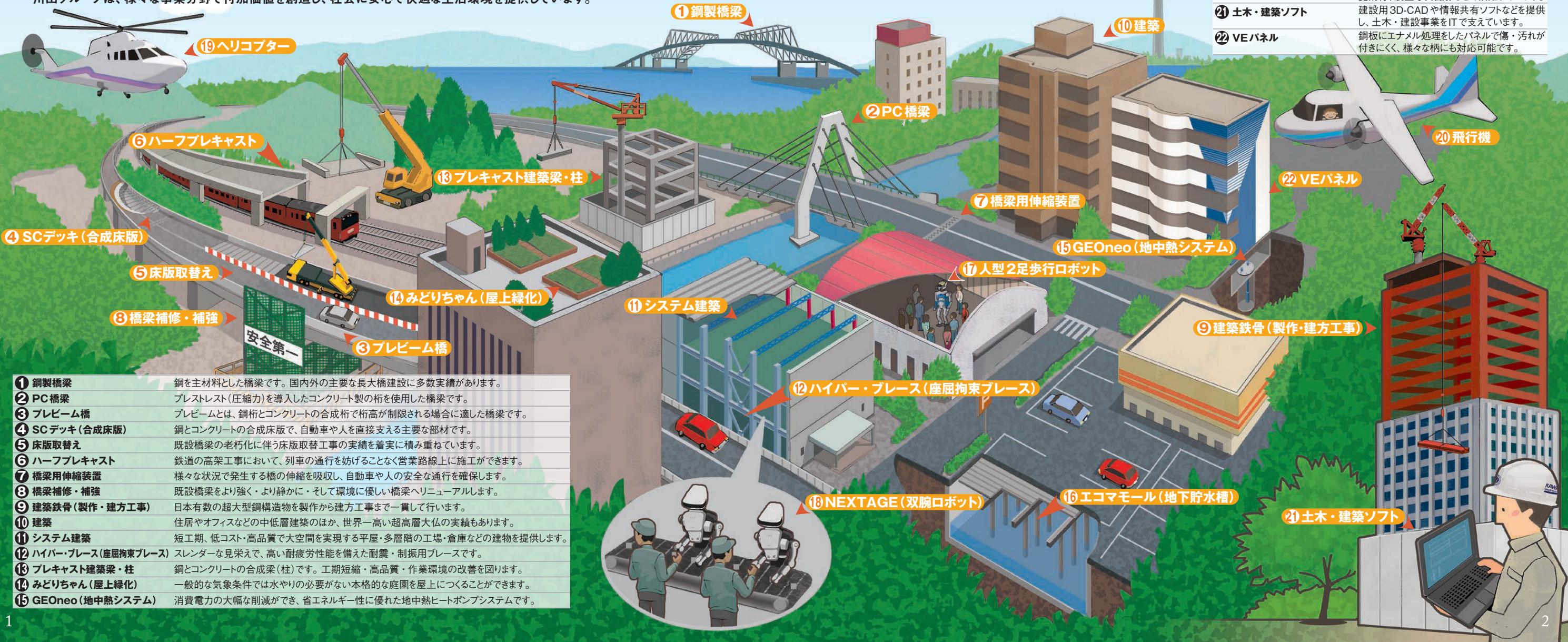
2020年4月1日 >>> 2021年3月31日



事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループのビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心して快適な生活環境を提供しています。



- ① 鋼製橋梁 鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
- ② PC橋梁 プレストレスト(圧縮力)を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
- ③ プレビーム橋 プレビームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
- ④ SCデッキ(合成床版) 鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
- ⑤ 床版取替え 既設橋梁の老朽化に伴う床版取替工事の実績を着実に積み重ねています。
- ⑥ ハーフプレキャスト 鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工ができます。
- ⑦ 橋梁用伸縮装置 様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
- ⑧ 橋梁補修・補強 既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁へリニューアルします。
- ⑨ 建築鉄骨(製作・建方工事) 日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行っています。
- ⑩ 建築 住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
- ⑪ システム建築 短工期、低コスト・高品質で大空間を実現する平屋・多層階の工場・倉庫などの建物を提供します。
- ⑫ ハイパー・ブレース(座屈拘束ブレース) スレンダーな見栄えで、高い耐疲労性能を備えた耐震・制振用ブレースです。
- ⑬ プレキャスト建築梁・柱 鋼とコンクリートの合成梁(柱)です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
- ⑭ みどりちゃん(屋上緑化) 一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
- ⑮ GEOneo(地中熱システム) 消費電力の大幅な削減ができ、省エネルギー性に優れた地中熱ヒートポンプシステムです。

- ⑯ エコマモール(地下貯水槽) 雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
- ⑰ 人型2足歩行ロボット 自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
- ⑱ NEXTAGE(双腕ロボット) ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
- ⑲ ヘリコプター 報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運航しています。
- ⑳ 飛行機 東京(調布)と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
- ㉑ 土木・建築ソフト 建設用3D-CADや情報共有ソフトなどを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
- ㉒ VEパネル 鋼板にエナメル処理をしたパネルで傷・汚れが付きにくく、様々な柄にも対応可能です。

「KAWADA VISION ～10年後のあるべき姿～」 の実現に向けて収益基盤を 強化し、変革を加速します。

新型コロナウイルス感染症のまん延が続く中、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げます。罹患された方々が一日も早く快復され、また感染症が終息し、皆様の平穏な生活が戻りますことを祈念いたします。

ここに2021年3月期の営業状況をご報告し、第2次中期経営計画にもとづく取り組みについてご説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長

川田 忠裕

Q 2021年3月期の営業状況をご説明願います。

A 民間投資がコロナ禍の影響を受ける中、公共投資の受注は一定量確保。利益は期初の予想を上回りました。

当期の受注環境を振り返ると、鉄構セグメントの鋼製橋梁事業や土木セグメントに大きく影響する公共投資は、鋼製橋梁の新設発注量が持ち直し、また高速道路会社の大規模更新や補修・保全などの発注量が増加したことで、鋼製橋梁事業の受注高は前期を大幅に上回りました。土木セグメントにおいても床版取替工事の増加により一定程度の受注高を確保することができました。

一方民間投資は、鉄構セグメントの鉄骨事業の発注が環境期を迎え受注競争が激化している中、首都圏及び関西地区における大型再開発工事の受注を積み上げることができたものの、建築セグメントは、新型コロナウイルス感染症が長期化する中、計画の見直しや先送りの影響により低迷を余儀なくされました。

そうした中、売上高は建築セグメントの事業ボリューム減少に加え、土木セグメントが前期に大型工事の設計変更獲得があった反動により減少いたしました。利益は、鉄構セグメントの鋼製橋梁事業と土木セグメントにおいて設計変更交渉が想定以上に進捗したものの、鉄骨事業における受注競争激化による採算性の悪化と建築セグメントにおける事業ボリューム減少による減益により前期を下回りました。

以上の要因により連結業績については、売上高、利益と

も前期を下回りましたが、総じて市場環境が厳しい民間事業での落ち込みを公共事業で補えたことに加え、持分法投資利益が増加したことで、各利益段階において期初の計画を大幅に上回る成果を上げることができました。

Q 第2次中期経営計画の進捗と計画2年目の状況についてお聞かせください。

A 第2次中期経営計画のテーマである「収益基盤の強化と変革の加速」を推進していきます。

当社グループは、2021年3月期から2023年3月期までの3か年を計画期間とする「第2次中期経営計画」を推進しています。本計画は、企業価値の持続的な成長「KAWADA VISION～10年後のあるべき姿～」を実現すべく、建設技術者・技能労働者の減少による「担い手不足」への対応と新たな収益源の確保に向けた「新事業創出」を経営課題と認識し、収益基盤の強化と変革の加速を図るものです。

収益基盤の強化は、公共事業における質を重視した受注と民間事業における安定的な受注量の確保を目指すとともにDX導入等による生産性向上・コスト低減で既存事業の収益を高める取り組みを進めています。鋼製橋梁事業において市場環境が変化している中、生産関連部門の組織を大幅に見直し、更なるコスト競争力強化を推し進めています。

また新たな収益源の確保に向けた「新事業創出」や建設技術者・技能労働者の減少による「担い手不足」については、「次世代3D溶接部可視化マスク」「アバターシステ

ム]「鉄骨建入れシステム」など、近年の技術開発が実用化に向けて大きく進展した1年となりました。

引き続き先端技術への取り組みを強化し、「川田ならではの新たな価値を創出していきます。

本計画の数値目標は、年度ごとの業績変動が大きい事業特性を踏まえ、3か年平均で売上高1,160億円、営業利益42億円とし、自己資本比率は2020年3月期比で3%以上改善させることを掲げています。計画初年度は、売上高1,155億円、営業利益55億円、自己資本比率は1.8%増加の44.8%に改善し、好スタートをきることができました。

しかしながら今期（2022年3月期）については、公共投資の発注量は概ね堅調に推移するものの、民間投資は新型コロナウイルス感染症が長期化している中で、これまで以上に不透明で厳しい状況が予想されます。

またこのような状況の中、鉄構、土木、建築のいずれのセグメントにおいても今期の施工量が減少する見込みである



ことに加え、鉄構、土木セグメントにおける設計変更が前期ほど期待できないことから、今期の連結業績は、売上高1,050億円、営業利益15億円、経常利益22億円、親会社株主に帰属する当期純利益11億円を予想しています。

当社グループにとって今期は「我慢の1年」となりますが、今一度、各セグメントにおける課題と向き合い、各種施策の追加と軌道修正を加えながら、第2次中期経営計画の目標達成を目指してまいります。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

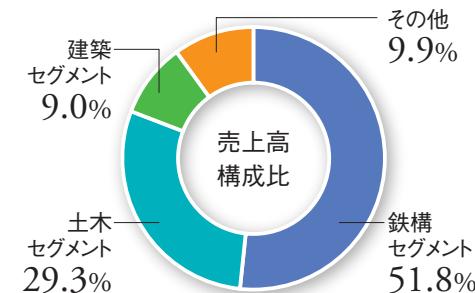
A 世の中に必要とされる企業として、持続的な成長と企業価値向上を目指すとともに、引き続き安定配当を維持します。

株主の皆様への利益還元については、強固な経営基盤の構築に向けた原資を確保しつつ、安定した配当を維持する方針を基本としています。今回の期末配当は本方針のもと、前期同額の1株当たり80円とさせていただきました。

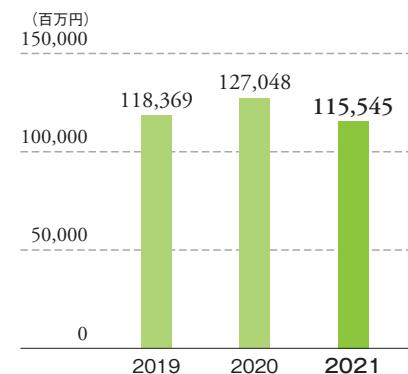
私たちは、グループ理念に掲げる「安心して快適な生活環境の創造」を通じて社会課題の解決に貢献し、世の中に必要とされる企業として、持続的な成長と企業価値の向上を目指します。そして「八方よし」の精神ですべてのステークホルダーと共生し、共栄を実現してまいります。株主の皆様におかれましては、当社グループへのご支援がより豊かな社会づくりにつながることをご認識いただき、これからも長きにわたりお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

当期の決算ポイント

- ◆ コロナ禍で建築セグメントの受注が伸び悩んだことにより売上高は減少
- ◆ 土木セグメントの前期大型設計変更獲得の反動と建築セグメントの事業ボリューム減少の影響により利益は減少
- ◆ 鉄構セグメントの鋼製橋梁事業において、大型特定更新工事をはじめとした大型工事を積み上げられたことにより受注高は増加
- ◆ 1株当たり80円の期末配当



売上高



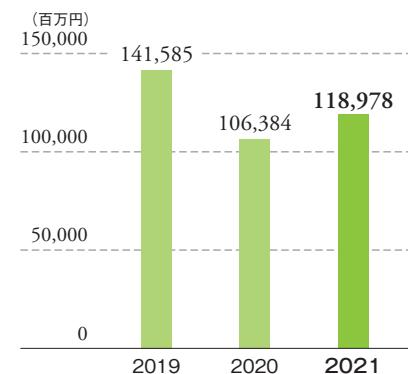
経常利益



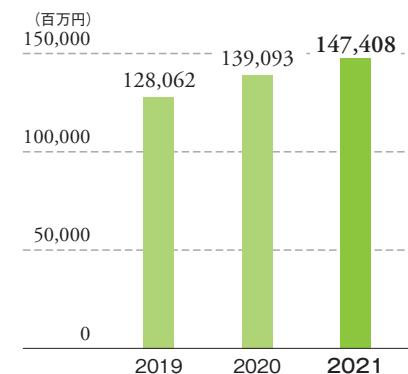
親会社株主に帰属する当期純利益



受注高



総資産

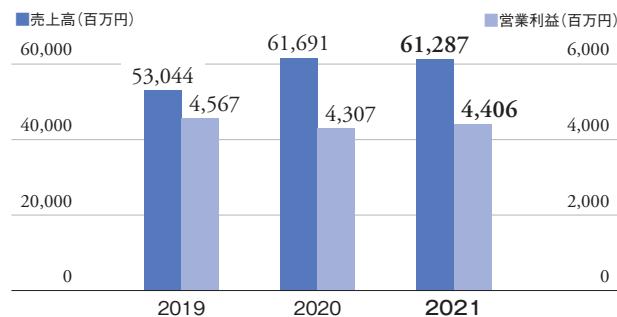


純資産/自己資本比率



鉄構セグメント

売上高 61,287百万円
営業利益 4,406百万円



橋梁事業は高速道路会社や北陸新幹線敦賀延伸関連の大型工事が順調に進捗したものの、鉄骨事業においては前連結会計年度に大型工事の設計変更獲得があった反動により、売上高61,287百万円（前期比 0.7%減）となりました。損益面では、橋梁事業において大型案件の設計変更交渉が想定以上に進捗したことにより営業利益4,406百万円（同2.3%増）となりました。

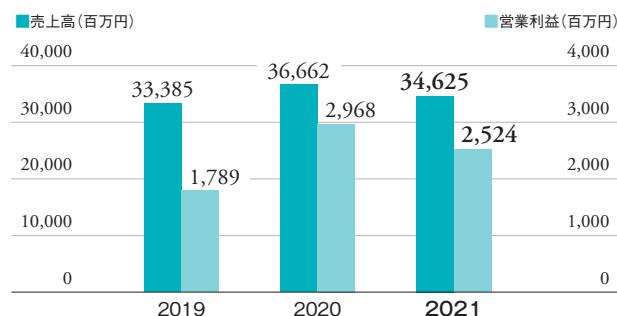


東京ミッドタウン八重洲(東京都)

主な連結子会社：川田工業株式会社

土木セグメント

売上高 34,625百万円
営業利益 2,524百万円



新設事業及び高速道路の更新事業を中心に順調に進捗したものの、前連結会計年度に複数の大型工事の設計変更獲得があった反動により、売上高は34,625百万円（前期比 5.6%減）となり、営業利益は2,524百万円（同15.0%減）と前連結会計年度に対し減少する結果となりました。

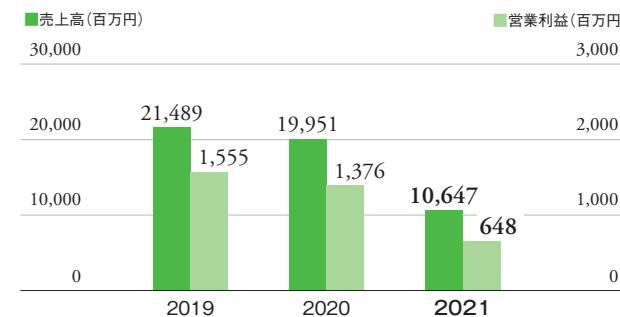


博多港(アイランドシティ地区)道路(V工区)橋梁(九州地方整備局)

主な連結子会社：川田建設株式会社

建築セグメント

売上高 10,647百万円
営業利益 648百万円



前連結会計年度からの繰越工事高の減少に加え、当連結会計年度の受注の伸び悩みにより売上高は10,647百万円（前期比 46.6%減）となりました。損益面は、売上ボリュームが減少する中、システム建築及びS造建築の採算性が改善したものの、売上ボリューム減少による減益を補うまでには至らず、営業利益648百万円（同 52.9%減）となりました。

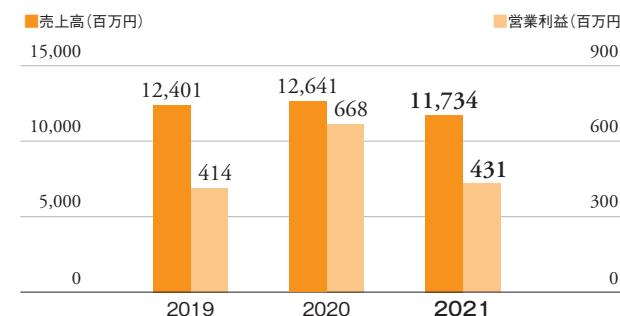


ボラテック西日本(株)佐賀工場2期増築工事

主な連結子会社：川田工業株式会社

その他

売上高 11,734百万円
営業利益 431百万円



航空機使用事業を中心に新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることにより、売上高は11,734百万円（前期比 7.2%減）、営業利益431百万円（同 35.5%減）となりました。

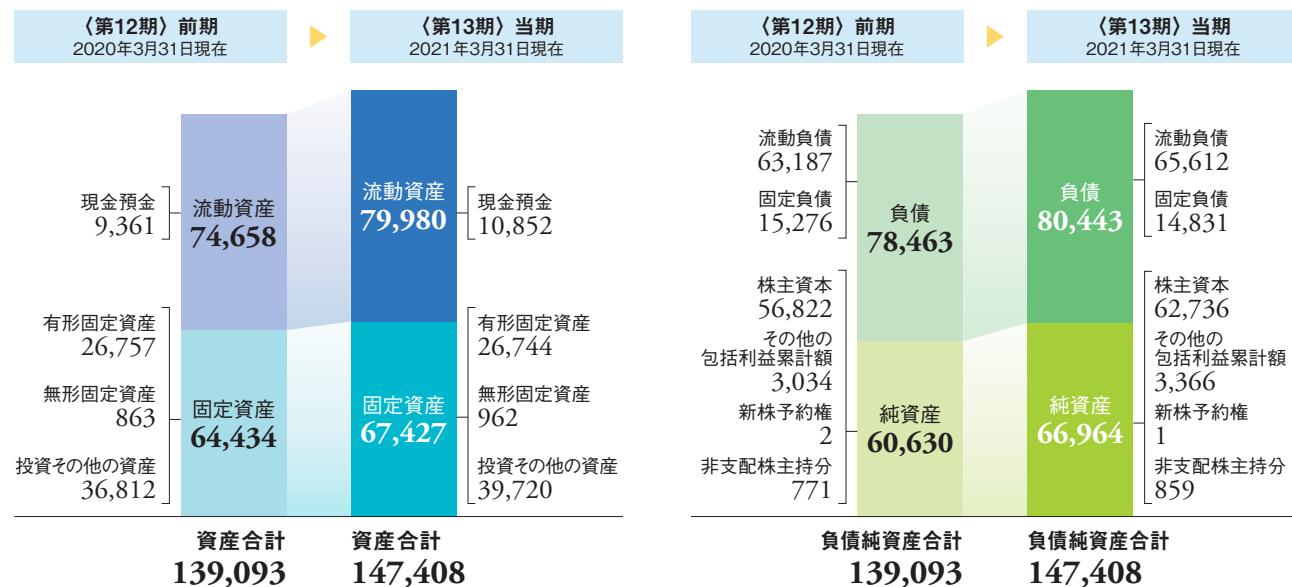


テレパリスト OriHime×NEXTAGE (オリ研究所との共同開発)

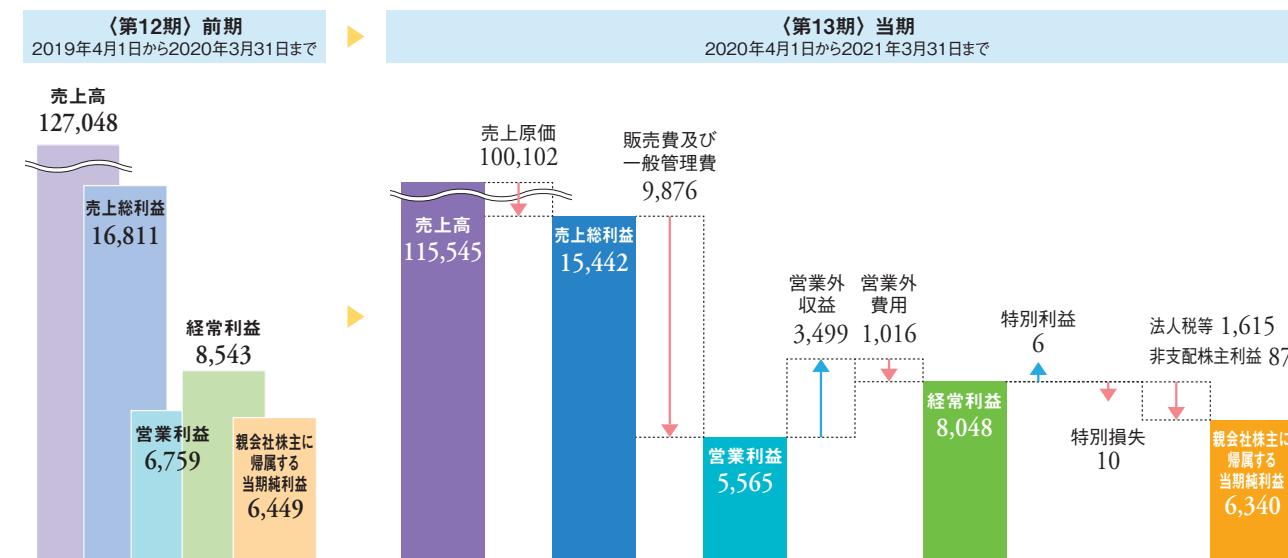
主な連結子会社：川田テクノシステム株式会社
株式会社橋梁メンテナンス
東邦航空株式会社
新中央航空株式会社
カワダロボティクス株式会社

(注) P7-8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

■ 連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)

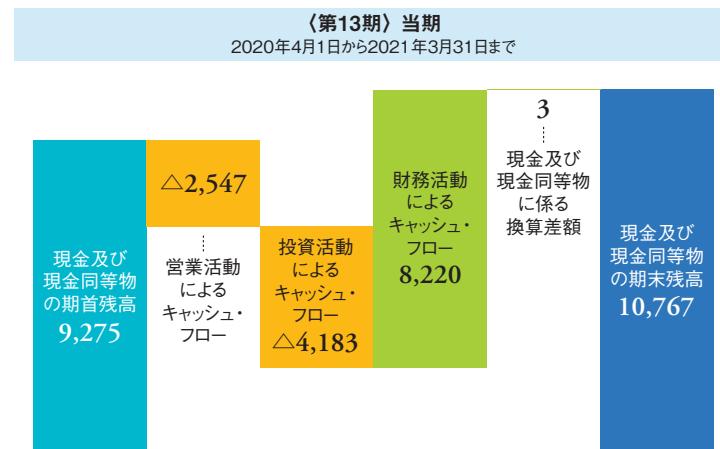


■ 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)

(注) △印は、マイナスを示しています。



● 営業活動によるキャッシュ・フロー

2,547百万円の資金減少(前期は4,126百万円の資金減少)となりました。これは主に、仕入債務の減少によるものであります。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

4,183百万円の資金減少(前期は2,764百万円の資金減少)となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。

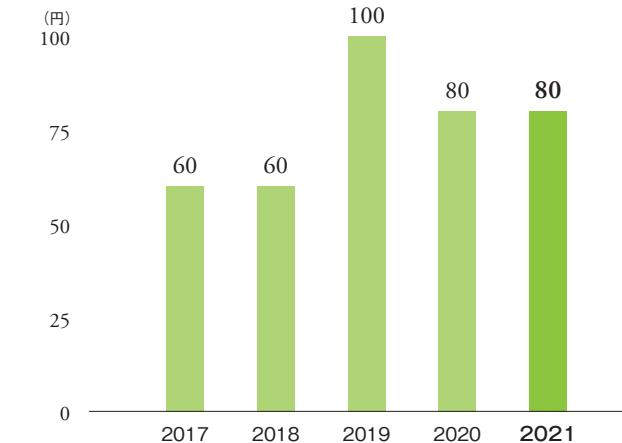
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

8,220百万円の資金増加(前期は5,535百万円の資金増加)となりました。これは主に、借入金によるものであります。

■ 1株当たり当期純利益



■ 配当



建設現場用 「アバターシステム」の開発

建設現場におけるテレワークの実現

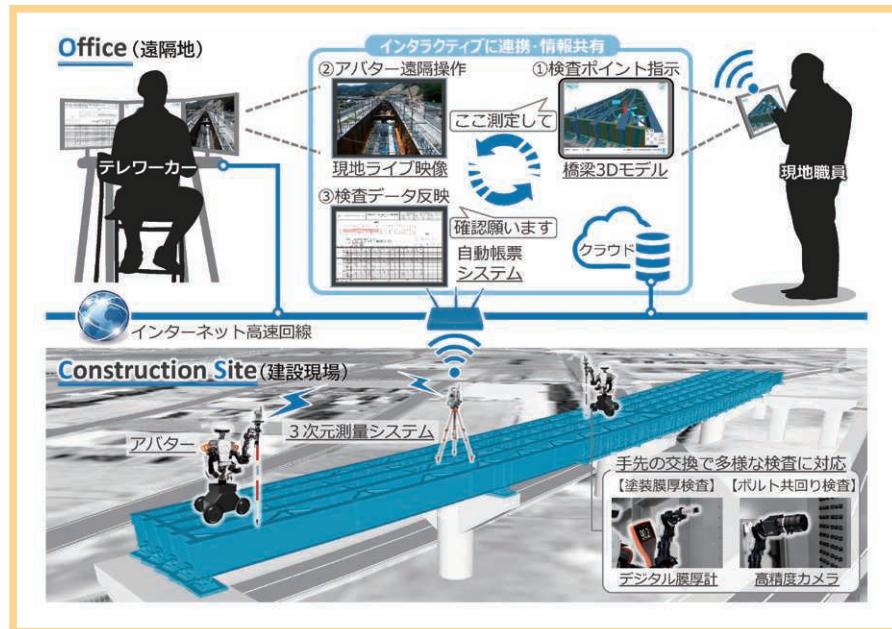
川田グループは芝浦工業大学と共同で建設現場のテレワーク化に向けたアバターシステムを開発しています。現在、建設現場の品質管理は人手による作業が多く、測定データの収集、分析、整理、帳票作成に多くの時間を費やしています。一方、少子高齢化に伴う労働人口の減少は、建設分野において極めて深刻になっており、生産性を高めるための技術開発は建設業界にとって喫緊の課題となっております。



イメージ図

アバターシステム

現地職員が店社などにいるテレワーカーに計測ポイントを指示し、テレワーカーがアバターロボットを遠隔操作し測定をします。アバターロボットが取得したデータをクラウドサーバに転送し、帳票を自動作成し、店社と情報共有を図ることで、現地職員に代わって店社職員が、複数の現場における品質・出来形管理を行えます。アバターロボットの手先を交換することで、橋桁の出来形測量、塗装膜厚検査、ボルト共回り検査などをはじめとした各種計測が可能となります。



現場実証実験

アバターの現場導入に向けて、当社の施工現場で実証実験を行いました。

対象現場 令和元～2年度 外環空港線洗地川橋(下り)
上部工事 鋼桁架設現場
発注者 国土交通省四国地方整備局
実験期間 2021年2月24日～3月3日

■ 塗装膜厚測定

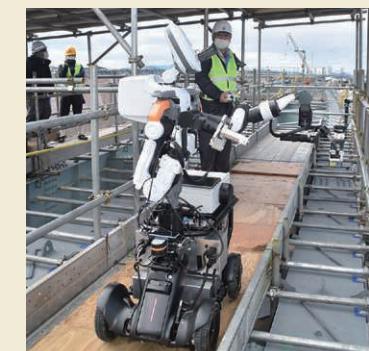


アバターによる現場作業



操作者

■ 出来形測量



橋桁上を移動しての測量



四国地方整備局の皆様による視察

川田グループは主力事業分野の生産効率と品質をともに高めるというコンセプトのもと各種開発を推進しています。また、建設業界にテレワークを主体とした「新しい働き方」を確立し、深刻化する「担い手不足」への対策に取り組んでまいります。

■ 会社の概要 (2021年3月31日現在)

商号 川田テクノロジーズ株式会社
KAWADA TECHNOLOGIES, INC.

事業内容 鋼製・PC橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発等を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務

設立 2009年2月

所在地 【東京本社】
〒114-8563
東京都北区滝野川一丁目3番11号
TEL: 03-3915-7722
【富山本社】
〒939-1593
富山県南砺市苗島4610番地
TEL: 0763-22-8822

資本金 5,285,573,800円

決算期 3月31日

従業員数 80名(連結2,338名)

代表者及び役員 (2021年6月29日時点)

代表取締役社長 川田 忠裕

常務取締役 渡邊 敏

取締役 川田 琢哉

取締役 宮田 謙作

取締役(社外) 山川 隆久

取締役(社外) 高桑 幸一

監査等委員である取締役
取締役 井藤 晋介
取締役(社外) 高木 繁雄
取締役(社外) 福地 啓子

■ 川田グループの全体像



■ 株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数 20,000,000株

発行済株式の総数 5,915,870株

株主数 4,886名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	836	14.14
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	530	8.98
株式会社北陸銀行	284	4.81
株式会社三菱UFJ銀行	265	4.49
川田テクノロジーズ社員持株会	214	3.63
GOVERNMENT OF NORWAY	207	3.51
川田工業協力会持株会	187	3.17
富士前商事株式会社	141	2.40
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.69
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	98	1.67

※持株比率は自己株式(2,072株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

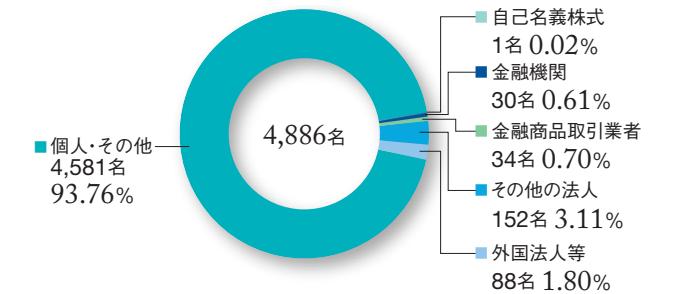
期末配当金受領株主確定日 3月31日

定時株主総会 毎年6月

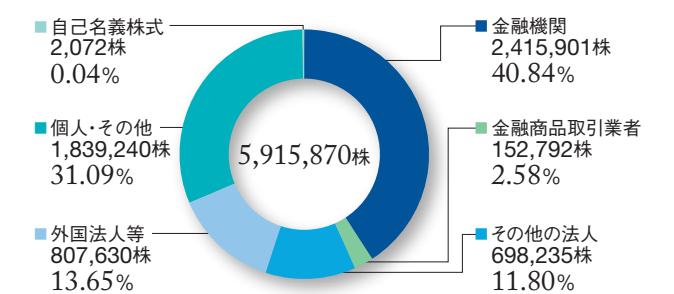
株主名簿管理人、特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先
(連絡先)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
Tel: 0120-232-711 (フリーダイヤル)
(郵送先)
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株主数構成比



株式数構成比



上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.kawada.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載いたします。)

● ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ります。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。